

尼崎藩砲術調練関係史料概要

1: 文書群番号	096004
2: 文書群名	尼崎藩砲術調練関係史料
3: 出所	八田一氏
4: 家業・役職等	—
5: 地名	武庫川
6: 行政区分	尼崎藩領
7: 歴史	戸田氏・青山氏の尼崎藩主時代は、泊兵部少輔一火に始まる一火流砲術が伝承されたという。松平氏の時代には、享保9年（1724）に大和国郡山より奥山儀太夫が藩の砲術指南に迎えられた。奥山家は代々武衛流砲術を伝承。いつ頃からか河合喜平治-河合左文治の家も砲術指南に。また寛政年間より家松幸内によって荻野流砲術が伝えられる。家松家は代々家松進右衛門を襲名し、大小姓・代官を勤めるかたわら砲術家として藩に仕えた。
8: 伝来	平成8年5月6日、上浦有雅氏が、八田一氏から譲られた史料を自分が所蔵していても将来廃棄することになりかねないとして史料館での保存を希望し、寄贈を申し出る。八田氏は火縄銃の収集・実射、関係史料の収集家、岡山市在住。上浦氏も火縄銃の収集・実射をされる。八田氏は自身が購入した史料から「武庫川」と記されている分を尼崎市在住の上浦氏に譲られた、とのこと。
9: 史料入手先	上浦有雅氏
10: 点数	2点(目録件数2件)
11: 年代	文政4年（1821）・近世
12: 構造と内容	本文書群は、文政4年（1821）に武庫川において行われた河合流砲術の藩主上覧時の演目と、年月日不詳の奥山家（武衛流）の砲術の演目である。 奥山家、河合家とも松平氏藩主時代の尼崎藩砲術指南役を務める家。このような指南たちにより、武庫川で藩主の上覧に供するための鉄砲射撃と花火の打ち上げが行われた。その日は10万人をこえる人々が武庫川堤に集まり、とりわけ花火はレクリエーション的行事の観があったようだ。
13: 関連史料	—
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	河野未央